

KISHIDA, K.-A synopsis of spider family Agelenidae

タナグモ科 總説

岸 田 久 吉

〔東京都 練馬区 小竹町 2352〕

Familia Agelenidae KOCH 1837.


タナグモ (店 蛛) 科

模式属 *Agelena* WALCKENAER, 1805.

科徴 1) 背甲は、2型を区別する。A. 原始的のは、長型で、長さ>幅であり、前方は、鈍形であり、後辺は広く、切形で、中央だけは微凹形である。胸窩は、たて向きであつて、相当長い。全面多毛性で、往々刺狀の長毛を交えておる。むろん、短い羽狀毛をももっている。B. 新的なのは、短形であり、長>幅で、往々よこの楕円形になつている。胸窩は、殆んど認めがたい。不毛性一少毛性である。

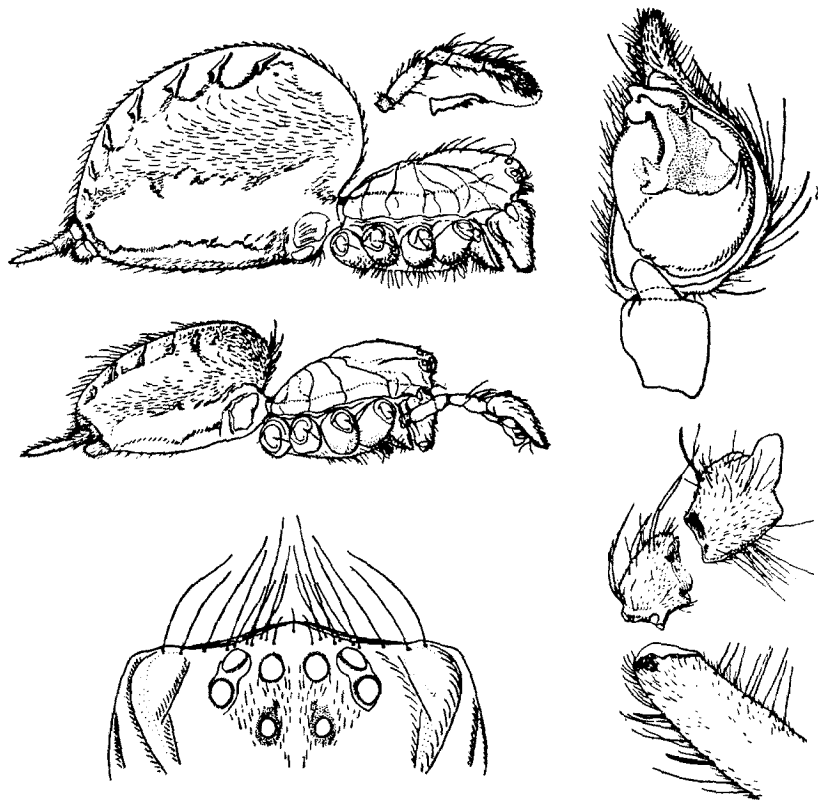
2) 額は、長いのが普通である。背甲縁のえがく平面に対し、垂直なものから 60° 位の角をなすものまで、種類によつて、色々である。

3) 眼域は、頭幅の $\frac{1}{2}$ — $\frac{1}{3}$ 位を占めておる。

4) 眼の数は、普通(A)8ケであつて、2列に並んでいる。しかし、(B)6ケで、外曲〔()〕した弧をえがいて並ぶものもある。また、(C)全く不眼性で、眼を認めがたいものもある。〔例 ウロタナグモ〕。5) 直眼 (=前列中眼) は、在るのが普通である。しかしながら、全く之れを欠いておるものもある。6) 眼性のもの (前項のB) や不眼性のもの (前項のC) など、その例である。7) 間眼は、普通3対6ケあるが、全く之れを欠いておる種類もある (4項のCの如く)。8) 間眼行は、内曲性〔()〕から外曲性〔()〕まで、段階がある。9) 眼の排列上、直眼と間眼 I との関係は、漸次的序列を示すようであるが、全眼を、同一平面にあらしめて、I 前曲型〔()〕II 端直型〔—〕III 後曲型〔()〕の3型にあてはめる。進化の過程は I → II → III と見做される。10) いわゆる側眼が、両側に於て離れているか、即いているか、可なり近いかは、今日は、前ほどにやかましく云わない。間眼に於けるそれらの多様性を、そう軽視して可いかな、筆者は今なお、断じかねておる。11) 中眼域は、直眼即ち前列中眼と、後列中眼 (これは、時に間眼 II であり、また、間眼 III なので、この指名—ノミネエション—にあまいさ—アンビギチ—がある。) のこしらえるものである。タナグモ科では、A. 前広の梯形から、B. □—□ 矩形—一方形をへて、C.  前狭の梯形への展開が見られる。Aは少く、B・Cが多い。長さ幅の関係は、進化の順序としては、I 長>幅 → II 長=幅 → III 長<幅と考えられておる。

11) 眼列比 前列が後列より短いのが、タナグモ科の常式である。

11) 胸板 これにも、2型がある。A. 長型は原的であり、長 \gt 幅乃至 \rightleftharpoons 長幅である。前広の心状で、後方へ尖つておる。普通、中凸で、多毛性であり、両前肩と後中部では、殊に密生の傾が強い。B. 短型は、新的であり、長 \lt 短乃至長 \rightleftharpoons 幅である。前辺は広く、切形—鈍形であり、後辺は才四脚の股間にあつて、存外広く、鈍形—切形である。普通に少毛性—不毛性である。12) 下唇（また下唇部）長さが目立ち、大体、舌



Agelena limbata Thorell, 1897. del. K. Kishida (camera drawing)

左上 ♀側面、触肢及触肢の爪 左中 ♂側面 左下 顔及眼域
右上 ♂触肢末節 右下 ♂触肢（上より）脛節、膝節、跗節

形である。弱く中凸—殆んど平坦であるが、前縁と両側縁とに亜縁溝を示しておるように見られる。これに、長短2型を区別する。I. 短型は、わずかに長 \lt 短乃至長 \rightleftharpoons 短であつて、原的である。II. 長型は、明かに、長 \gt 幅であつて、新的である。

13) 上顎 タナグモ科では、体節が、大体、A. 円柱状 B. 円錐状 C. 多角錐状のどれかにはまる形をしており、基脚外側に、不毛性であり、かつ滑かな外果を、必ず有

つている。背甲と上顎との関節用であるが、その形状・色彩は、種の特徴にも用いられる。体節は、各面に、往々種徴ともなるところの武装をもつておる。外面と前面とは大抵、粗毛を生じている。梢部の前下方は、短い牙溝を作っており、その前堤も後堤も、大小色々な歯を具えているもので、かつては、属の特徴に用いた学者も出ている。牙は短く太くて、曲っておる。その先端に近い後面に、毒口を開いている。

14) 下顎 外側から見ると、くさび状体で、元に太く先にはそい。後面観は、ゆがんだ長三角形 B. ゆがんだ長四角形 C. ゆがんだ先広のへら形のどれかをしておる。前端外半に小鋸、内半に、下顎毛総をよそおっている。下顎のたての軸が、A. 梢寄性(さきより)であるか、B. 平行であるかのことが多く、梢開性(さきびらき)のことは、まれである。

15) 触肢 主部は、下顎の外前部に発展しておる。タナグモ科の♀では、触肢節の中で、長いのは、腿・脛・跗3節であり、回・膝2節は短い。武装は、跗梢の単爪の外に毛・刺・羽状毛である。なお、脛と跗とは、上稜に、2行の耳毛を立てておる。では、長い節は2つで、それは、腿と跗とである。8の跗には、単爪が欠けており、刺状毛・羽状毛・刺を生じておる。精球は、巨大であり、それ自身の構造・外形および附属品は、種によつて非常にちがっている。なお、膝・脛2節には、距・その他各種類独特の武装をしておることか、普通である。

16) 歩脚 ほそい膝節は、腿と跗との2つである。その上稜には、普通よくわかることの耳毛が立つておる。次に、跗は常に短くて、粗毛を可なり密に生じておる。ただし、刺は無い。跗の梢は斜切されており、上は引き、下は進んでいる。この下ののびの両側には、毛総状にたわんだ粗毛の毛束を具えておるものが多い。のびの坂に、2本の長大かつ有歯性の上爪があり、のびの端の上部から、1本の小さい、強く曲つたところの少歯性一微歯性下爪が出ておる。何れにしても、跗は、3爪性で、毛総を欠いている。他の腿・膝・脛3節は、太くて強いし、武装は、羽状毛・刺状毛・刺の3とおりでちる。回には、ドグモ等とちがつて、切れ込みは、殆ど全く無い。

17) 腹柄 元来、この部は、腹部原のものであるが、体が2つに切れるときには、大部分、頭胸部についていく。タナグモ科では、腹柄の脊に、広い濃褐色の全辺・単節な柄甲がある。柄甲前辺は、後曲し、側前部は、小角状である。また、柄甲には、往々、亜縁溝をみとめる。腹柄の腹面は、往々、革質で、よこのしわをもっているが、而も、甲板を示すことは無い。

18) 主腹 大きい袋状体で、普通、可なりに長い。腹面に、書肺1対、書肺気門1対、気管気門1ヶをもつておる。篩疣は、無い。蛛疣は、3対6本あつて、排列式は2:2:2であり、尋常である。前疣は、一見単節性で、太い。元は、広く離れておる。中疣はほそい。後疣は、明かに2節性であるが、後疣節ⅠとⅡとの長さの割合は、非常に種類によつてちがう。A. $I > II$ B. $I \approx II$ C. $I < II$ の3型に分けて、簡単に概括し

(4)

ておる。このことは、紡糸性と密接な関係があり、網性・繭性……などとの出入りを考察するのに役立つ。蛛疣上に於ける紡管の種類・数・排列、ならびに疣体上の毛・刺状毛・羽状毛・刺の位置・数・排列も種徴を示しておる。節疣の退化したものとも見られる間疣は全く欠けておる。

19) 肛丘は腹部の後下端に在つて、まず半円形、短く、小さい。

20) 科徴要点 A. 皮膚に羽状毛がある。B. 眼は頭幅の1部を占めており、2列性である。C. 上顎は外果を具えている。D. 下顎主軸は、さきより一並行である。E. 歩脚回は切れ込みを示さない。跗上稜に耳毛行があるし、上爪は有歯性。真の毛総は無い。F. 後疣はとにかく2節性である。

分類 主として (1) 胸板 (2) 下唇 (3) 間眼行の性状によつて、4 亜科に分ける。

タナグモ科の亜科名検索表

A. 下唇は長さが幅をこえない。

B. 胸板は、後端が狭い。……………Ⅰアカクサグモ亜科 (p. 4)

BB. 胸板は、後端が広くて、切形をしておる。……………Ⅱムナビログモ亜科 (p. 7)

AA. 下唇は、長さが 幅にまさっている。

B. 間眼行は、内曲性〔 〕である。……………Ⅲズボソグモ亜科 (p. 8)

BB. 間眼行は、外曲性〔 () 〕である。……………Ⅳタナグモ亜科 (p. 10)

I Subfamilia Cicurinae KISHIDA, 1928.

アカクサグモ亜科

模式属 *Cicurina* MENGE, 1928.

亜科の特徴 1) 背甲は、長>幅であり、頭部はほそいがやや高い。2) 胸板は、長い倒卵状心形、後方にはそつておる。3) 下唇は、長<幅、または長=幅であつて、短く書けば長>幅である。4) 上顎は、円柱型であつて、而も、やや太い。後牙堤には、割合多くの一ただし小形の歯をもつておる。5) 下顎主軸は、多少先より性である。6) 触肢はさきに於て、膝・脛2節は、可なりひどく短化しておる。7) 歩脚は存外ほそいが、長くはない。上爪の歯は、長大である。8) 前疣も、後疣も2節性である。ただし、必ず疣節Ⅰ>Ⅱであり、而も、その長さの差は甚だ大きい。前疣同士は、元で広く離れておる。

分布 北方界 (日本を含む)・東洋界・南方界・旧熱界。

分類上の位置 タナグモ科中で、ムナビログモ亜科に比べて、はるかに原的なものである。この亜科の中には、眼性に於て、実に色々の変化が存在する。このことは、見ようによつては意味がある。

分類 主として (1) 眼種の発達度と (2) 排列とによつて、4 群に分ける。

アカクサグモ亜科の群名検索表

A. 間眼行は、内曲性〔 〕である。

- 直眼は、発達している。……………1.アカクサグモ群 (p.5)
- AA 間眼行は、外曲性〔 \cap 〕である。
- B. 直眼は、発達している。
- C. 前列は、端直〔 $-$ 〕である。……………2.ゴヘイグモ群 (p.5)
- CC. 前列は後曲性〔 \cup 〕である。……………3.コカゲグモ群 (p.6)
- BB. 直眼は、全く欠けている。……………4.ムツメクサグモ群 (p.6)

1. Tribus Cicurini KISHIDA 1928.

アカクサグモ群

模式属 *Cicurina* MENGE, 1866.

群の特徴 1)眼は、8ヶあつて、直眼も存在する。2)間眼行は、まず内曲性〔 \cap 〕であり、少なくとも後列は、端直〔 $-$ 〕または、前曲性〔 \cup 〕である。

分布 北方界 (日本をも含む)・東洋界・南方界・旧熱界。

所属 4属 *Cicurina* MENGE, 1866 [Genotype: *cicura* (FABRICIUS, 1804)] (アカクサグモ属), *Tuberta* SIMON, 1884 (Genotype: *insignipalpis* SIMON, 1884); *Cicirra* SIMON, 1886 (Genotype: *decemmaculata* SIMON, 1886), *Mizaga* SIMON, 1897 (Genotype: *chevreuxi* SIMON, 1897)

アカクサグモ群の属名検索表

- A. 下唇は長<幅。直眼<間眼 I。
- 前列は、弱く後曲性〔 \cup 〕後列は、端直〔 $-$ 〕である。……………ツベルタ属
- AA. 下唇は長<幅である。
- B. 中眼域は長 \approx 幅である。
- C. 前列は、端直〔 $-$ 〕。後列は、前曲。〔 \cup 〕……………キキルラ属
- CC. 前列は、後曲〔 \cup 〕。直眼<間眼 I。中眼域は、前辺<後辺の梯形、長<幅である。……………ミザガ属
- BB. 中眼域は、長<幅、または、長 \approx 幅である。直眼は、間眼 I とまず同大又はやや小さい。前列は後曲性〔 \cup 〕、後列は端直〔 $-$ 〕。額>直眼径である。……………アカクサグモ属

2. Tribus Tetrilini, 1928. KISHIDA, 1928.

ゴヘイグモ群

模式属 *Tetrilus* SIMON, 1886

- 群の特徴 1) 背甲は、長卵形である。2) 直眼<間眼 I であつて、その差は大きい。
- 3) 前列は、多くは端直性〔 $-$ 〕であるし、眼間は狭い。4) 間眼行は、とにかく外曲〔 \cap 〕している。間眼 I と II との間は狭いが、たしかに離れてはおる。5) 額は、直眼径よりも明

かに長い。6)胸板は広大・中凸で、長<幅は著しい。後方にはそつて伸び、才四脚の股間に終つてゐる。7)下唇は、長<幅である。つよく前にはそり、前端は切形を呈してゐる。8)上顎後牙堤には、小さな3-∞歯がある。9)下顎主軸は弱く先よりである。10)歩脚IV>Iである。

分布 北方界(日本を含む)

所属 4属 *Tetrilus* SIMON, 1886 (Genotype: *japonicus* SIMON, 1886) (ゴヘイグモ属) *Paratetrilus* KISHIDA, 1928 [Genotype: *lucifugus* (SIMON, 1886)]; *Giltayia* KISHIDA, 1928 [Genotype: *arietinus* (THORELL, 1871)]; *Moguracicurina* KOMATSU, 1947 (Genotype: *honesta* KOMATSU 1947.) Biosphaera Vol. 1, No.1

ゴヘイグモ群の属名検索表

A. 中眼域は、長≒幅である。

B. 後列眼は同大である。……………ギルタイア属

BB. 後列眼は、異大(後中眼<後側眼)である。

C. 後列の眼間は、同長である。……………バラテトリルス属

CC. 後中中間>後中側である。……………ゴヘイグモ属

AA. 中眼域は、梯形で少々ながら長<幅である。……………モグラグモ属

3. Tribus Cryphoecini SIMON, 1897, KISHIDA, 1928. s.str.

コカゲグモ群

模式属 *Cryphoea* THORELL, 1870.

群の特徴 1)直眼は、間眼よりもはるかに小さい。2)前列は、強く後曲〔〕であり、眼間は極めて狭い。3)間眼行は、外曲〔〕で、I×IIは狭く、他は少々広い。4)前列<後列。その差は小さい。5)中眼域は、前狭の梯形であつて、長≒幅である。6)額≒間眼Iである。7)胸板は広心形、長>幅であり、後端はほそい。8)下唇は、長<幅で、前方にはそり、前端は切形である。9)上顎は亜円柱状で、後牙堤には、異大の多数歯がある。10)下顎短広である。11)歩脚は短くて太い。IV>Iである。各脚に長刺が多く生じてゐる。12)後疣節I>IIで、その差は大きい。

分布 北方界。

所属 唯1属 *Cryphoea* THORELL, 1870 [Genotype: *silvicola* (KOCH, 1834)](コカゲグモ属) 日本産は、コカゲグモ1種だけが知れてゐる。

4. Tribus Chorisommatini KISHIDA, 1928.

ムツメクサグモ群

模式属 *Chorizomma* SIMON, 1872.

群の特徴 1)背甲は、長型で、前方は鈍形である。2)額は、可なりに長い。3)直眼は、全く無い。4)間眼は、発達がよく、眼間は、広狭の変化がある。いわゆる後中間眼は、常に甚だ広い。5)間眼行は外曲性〔 〕である。6)他の点は、可なりナミハグモやアカサグモなどに似ておる。

分布 北方界。

所属 2属 *Chorizomma* SIMON, 1872 (Genotype: *subterraneum* SIMON, 1928)
(ムツメクサグモ属) *Ameromma* KISHIDA, 1928 (Genotype: *californicum* SIMON, 1872)

ムツメクサグモ群の属名検索表

- A. 間眼は、すべてまず同大である。……………ムツメクサグモ属
AA. 間眼ⅠはⅡやⅢ よりも大きい。……………アメロム属

II. Subfamilia Asemosterinae KISHIDA, 1928.

ムナビログモ亜科

模式属 *Asemostera* SIMON, 1897.

亜科の特徴 1)背甲は、よこの楕円形でもちろん長<幅であつて、その前に小さな頭部がついている。眼域近くは、極めて短広かつ高まつておる。2)額はA. 甚だ長く、はるかに眼域長をこえているか、又はB. 短い。3)眼は、8ヶあつて、2行に並んでおる。4)直眼は、間眼よりもいく分小さい。直眼間は、狭い。5)前眼列は、まず端直〔一〕である。6)前列<後列である。ただしその差は小さい。7)両列の側眼間は、極めて狭い。8)中眼域は、方形または前狭の梯形である。9)胸板は広心形。長<幅であつて、その差は大きく、広いことが目立つ。後方にはそつているが、でも、後縁は広く、切形をしており、胸板後端は、才四脚の股間に終つている。10)下唇は、長=幅である。11)上顎は多角錐体であるが、後牙堤には、少数の長歯を具えておる。12)下顎は中庸の長さで、長軸は弱く前より(ハ)である。13)触肢8で膝・脛2節は、短化しており、跗と腿とは長大である。14)歩脚は、ほそ長く、長毛と刺がある。

分布 新熱界。

分類 もつぱら間眼の排列の工合によつて、2群を分ける。

ムナビログモ亜科の群名検索表

- A. 間眼行は、内曲性〔 〕である。……………5.ペリヂダ群 (p.7)
AA. 間眼行は、外曲性〔 () 〕である。……………6.ムナビログモ群 (p.8)

5. Tribus Pelididini KISHIDA, 1928.

模式属 *Pelidida* SIMON, 1897.

群の特徴 1)背甲は、長さが幅に劣っており、頭部が、胸部よりも明かに高い。2)額は短い。3)直眼は、間眼Ⅰよりも小さい。4)間眼列は、内曲性〔〕である。つまり後眼列は、前曲〔へ〕しておるのである。5)各眼間は、狭い。後列中眼間は、やや広く、中側両眼の間は、狭い。6)中眼域は、広い梯形であり、前辺<後辺である。7)歩脚は、ほそ長く、粗い刺をはんの少数だけ、生じている。

分布 新熱界 (南ブラジル)

所属 唯1属 *Pelidida* SIMON, 1897 (Genotype: *albida* SIMON, 1897).

6. Tribus Asemosterini KISHIDA.

ムナビログモ群

模式属 *Asemostera* SIMON 1897.

群の特徴 1) 背甲は、横の楕円形であつて、ヒラタグモのに似ており、もちろん長さは、幅よりも明かに劣っている。2)額は、極めて長い。中眼域よりも長い。3)直眼は、間眼Ⅰよりも少々小さい。4)間眼行は外曲〔()〕しており、各間眼はまず同大である。5)前眼列<後眼列であり、前列は、まず端直〔一〕である。6)中眼域は長≒幅、前辺≒後辺である。7)胸板は、長さ<幅であり、広い心形をしており、後端は才四脚の股間に終り、極めて広く切形である。8)上顎後縁には2小歯がある。9)歩脚は、可なり長く、ほそくて、少数の長刺を生じている。

分布 新熱界 (ブラジル南部)。

所属 唯1属。しかも、単型性である。*Asemostera* SIMON, 1897 [Genotype: *latithorax* (KEYSERLING, 1886) sub: *Erigone*]

III. Subfamilia Tetranychinae KISHIDA, 1920.

スボソグモ亞科

模式属 *Tetranych* SUNDEVALL, 1833

亜科の特徴 1)背甲は、長型であるが、胸部は、広いし、また丸い。頭部は、十分にはそく長く、前方は鈍形である。ただし、その両側縁は長いし、かつ、殆ど平行しておる。2)額は、長いし、40°位な角をもつておる。3)眼の発達は、属によつてちがつておる。有眼性の場合、前眼列は、まず端直〔一〕。後眼列は、多少とも前曲〔へ〕であつて、間眼行は、いきおい内曲〔()〕になつておる。又、前列<後列であり、その様子にはドクグモ式の所がほのかに見える。4)胸板は、広心形で、後ぼそりである。5)下唇は、長<幅で、強く前にはそつておる。6)上顎後牙堤は少歯性である。7)下顎は、存外長くはない。8)歩脚は、タナグモ型、かつ、有刺性である。9)後疣節Ⅰ≒Ⅱ又は、Ⅰ<Ⅱであり、Ⅱは鋭尖状である。

分布 北方界。

分類 主として、(1) 背甲に於ける頭部の形状と (2) 眼の発達の工合によつて 2 群を分ける。

ズボソグモ亜科の群名検索表

A. 頭部は、狭長・異様。眼の発達は、尋常である。……………7.ズボソグモ群 (p.9)

AA. 背甲は、タナグモ様。眼は、退行性であり、極端な場合には、不眼性になっている。……………8.ウロタナグモ群 (p.9)

7. Tribus Textrichini KISHIDA, 1928.

ズボソグモ群

模式属 *Textrix* SUNDEVALL, 1833.

群の特徴 1) 背甲の概形が、多少独特である。即ち、頭部がはさく、長く伸びており、両側縁は、並行である。2) 額は、長くて、斜めに出ておる。3) 直眼は、やや広く離れていて、間眼よりもいく分小さい。4) 間眼は、異大性であつて、ⅠとⅡとは小さく、Ⅱは最大である。5) 間眼行は、内曲性〔〕であり、後列は強く前曲〔へ〕し、眼間は広い。6) 前列は、まず端直〔一〕である。7) 前列<後列であり、その差は大きい。また、眼域全景などに、大形のドクグモを偲ばせるものがある。8) 中眼域は、前狭の梯形であり、長<幅、前辺<後辺である。9) 後疣節Ⅰは、前疣位の長さ太さであり、Ⅱよりも明かに短い、Ⅱは長い円錐体である。

分布 北方界。

所属 唯 1 属 *Textrix* SUNDEVALL, 1833 [Genotype: *denticulata* (OLIVIER, 1879)]

8. Tribus Haditini KISHIDA 1928.

ウロタナグモ群

模式属 *Hadites* KEYSERLING, 1862.

群の特徴 1) 背甲は、タナグモのに似ているが、頭部は更に中凸度が強い。2) 額は、可なりに長い。3) 眼は、強く退行しており、全くこれを欠くものもある。4) 具眼性の種類では、直眼は、間眼よりも小さい方であり、前列は極めて弱く後曲〔へ〕している。間眼は、すべて小さく、各間眼は広い。後列は、わずかに前曲〔へ〕しておる。前列<後列。いわゆる側眼間は、広い。中眼域は、前狭の梯形であつて、長<幅。前辺<後辺である。5) 胸板は、長く広いところの心形であり、中凸で、後に尖り、長毛が多い。6) 下唇は、舌形で、長>幅であり、前狭である。7) 上顎は、円錐状体で、後牙堤には 3—4 本の歯を具えておる。8) 下顎は、長いへら形をしており、中軸は少々前寄りである。9) 触肢さでは可なりに長い。腿・脛・跗 3 節は長い。10) 歩脚は長くて、長毛と弱刺と

を生じておる。I>IVである。11) 後疣は、タナグモのとちがつて、はるかにほそくて長い。

分布 北方界：地中海地方。

所属 2属 *Hadites* KEYSERLING, 1862 (Genotype: *tegenaroides* KEYSERLING, 1862) (ウロタナグモ属). *Ommathadites* KISHIDA, 1928 [Genotype: *O.myops* (SIMON, 1885)]

ウロタナグモ群の属名検索表

A. 小さな8眼を具えておる。……………オンマタヂテス属

AA. 眼は、全く無い。……………ウロタナグモ属

IV. Subfamilia Ageleninae SIMON, 1897, ad pars.

タナグモ亜科

模式属 *Agelena* WALCKENAER, 1805.

亜科の特徴 1)背甲は、明かに長型である。中凸であつて、前方と前側方とには、相当に多毛性である。頭部は、狭く前方に出ておるが、高さは強くない。2)額は、可なりに長いが、必ずしも中眼域の長さをこえない。3)眼域は、8眼をもつておる。4)直眼は、A直=間I, B直<間, C直>間の3型に分れている。A・B・C 3型の進化序次は、しかし、不明である。5)間眼行は、外曲〔 〕であり、眼間は広い。6)前列はまず端直〔—〕、または、弱く後曲〔 〕である。7)前列<後列。その差は小さい。8)中眼域はA長=幅, B. 長>幅, C. 長<幅の内であり、また、その概形上は、I 方形, II 矩形, III 梯形。前辺後辺関係では1. 前=後2. 前<後の間にある。9)胸板は、甲、広い楕円形、乙、短い心形で、後方にはそり、尖つてゐる。10)下唇は、舌形、長>幅である。11)上顎は、強大。後牙堤には、数本の粗歯がある。12)触肢では、膝・脛に往々距をもつておる。13)歩脚は、強く発達しており、有刺性である。14)後疣節は、変化はあるが、発達はい。

分布 北方界・東洋界・南方界・旧熱界・カナリイ島・新熱界。

分類 主として、(1)後疣節の発達の程度(2)直眼と間眼との発達の差異によつて、4群を分ける。

タナグモ亜科の群名検索表

A. 後疣節IはIIよりも長い。

B. 直眼は、間眼Iよりも小さい。……………9.アサマグモ群 (p.11)

BB. 直眼は、間眼Iに比べて、小さくはない。……………10.タナグモ群 (p.11)

AA. 後疣IはIIに比べて、格別長くはない。

B. 直眼は、間眼Iよりも小さい。……………11.カワリクサグモ群 (p.12)

BB. 直眼は、間眼Iよりも大きい。……………12.クサグモ群 (p.12)

9. Tribus Malthonicini KISHIDA, 1928.

アサグモ群

模式属 *Malthonica* SIMON, 1897.

群の特徴 1) 背甲は、長型であり、頭部は、狭くて高い。2) 額は、短く、間眼よりも短い。3) 直眼は、間眼 I よりも明かに小さい。4) 間眼行は、外曲性〔()〕である。5) 中眼域は、長 > 幅である。6) 上顎後縁は、多くの細歯を具えておる。7) 後疣節 I は、I よりも明かに長大である。

分布 北方界 (ポルチュガル: ルシタニア, 日本)

所属 2 属 *Malthonica* SIMON, 1897. (Genotype: *lusitanica* SIMON, 1897); 単型である。 *Pseudoceras* KISHIDA, 1928 (Genotype: *asamensis* KISHIDA, 1928) (アサグモ属)。

10. Tribus Tegenarini, KISHIDA 1928.

タナグモ群

模式属 *Tegenaria* LATREILLE, 1804

群の特徴 1) 背甲は、長型で、高く、頭部は狭い。2) 額は、長くて、直眼よりも広い。3) 2 眼列は、殆んど端直であるか、又は弱く後曲〔〜〕しておる。4) 中眼域は、長 = 幅である。〔しかし、前辺: 後辺は、色々である。〕5) 上顎後縁歯は粗大である。6) 後疣節 I: II の比大は色々である。

分布 汎世界的。

所属 少くとも 8 属ある。1) *Tegenaria* Latreille 1804 = *Drymonia* SIMON, 1875; (= *Philoica* KOCH, 1837; *Histopona* THORELL, 1869) [Genotype: *domestica* (CLERCK, 1757)] (タナグモ属) 2) *Caelotes* BLACKWALL, 1841 (Genotype: *Atropos* (WALCKENAER, 1825) = *Clubiona saxatilis* BLACKWALL, 1834) (ヤチグモ属) 3) *Coras* SIMON, 1897 (Genotype: *medicinalis* (HENTZ, 1821)) (メガネグモ属), 4) *Iwogumoa* KISHIDA, 1928 [Genotype: *insidiosus* (KOCH, 1877)] (シモフリグモ), *Iamatega* KISHIDA, 1928 [Genotype: *campestris* (KOCH, 1835)] (ヤマタナグモ属), *Pireneitega* KISHIDA, 1928 [Genotype: *roscida* (KOCH, 1868)] (ビレネグモ属), *Sabitega* KISHIDA, 1928 (Genotype: *ferruginea* (PANZER, 1804)] (サビタナグモ属) *Tubitega*, KISHIDA, 1928 (Genotype: *corasina* KISHIDA, 1928) (ツツグモ属)

タナグモ群の属名検索表

A. 直眼は、間眼 I よりも小さい。

- B. 前眼列は、端直〔－〕である。
C. 後列も端直である。……………ヤチグモ属
CC. 後列は、後曲性〔－〕である。……………タナグモ属
BB. 前眼列は、後曲〔－〕しておる。(後列も、後曲性である)。…ヤマタナグモ属
AA. 直眼は、間眼Ⅰに比べて、小さくはない。
B. 直眼は、間眼Ⅰと似た大きさである。
C. 前列は端直性〔－〕である。……………ピレネイグモ属
CC. 前列は、後曲性〔－〕である。……………サビタナグモ属
BB. 直眼は、間眼Ⅰよりも、明かに大きい。
C. 間眼は、すべて明かに離れている。
D. 中眼域は、前狭の梯形である。……………メガネグモ属
DD. 中眼域は前辺後辺≒である。(長≒幅でもある)。……………ツツグモ属
CC. 間眼Ⅰ×Ⅱは、即いている。中眼域は前辺≒後辺である。…シモフリグモ属

11. Tribus Agelenopsini KISHIDA, 1928.

カワリクサグモ群

模式属 *Agelenopsis* GIEBEL, 1869.

群の特徴 1)背甲は、長型で、まず長卵形である。頭部は、狭くて、前方に丸い。頭部と胸部は、まず同高である。2)額は可なりに長く、中眼域長に劣らない。3)直眼は、明かに間眼Ⅰよりも小さい。4)すべての間眼は、まず似た大きさである。5)後疣節Ⅰは明かにⅡよりも短い。

分布 北方界・新熱界。

所属 2属が認められる。1) *Agelenopsis* GIEBEL, 1869 (Genotype: *albipilis* GIEBEL, 1869) (カワリクサグモ属) 2) *Melpomene* F. PICKARD-CAMBRIDGE, 1898 (Genotype: *elegans* F. PICKARD-CAMBRIDGE, 1898) (モレヨクサグモ属)。

カワリクサグモ群の属名検索表

- A. 8の触肢は、脛距を欠いておる。……………モレヨクサグモ属
AA. 8の触肢は、脛距を具えておる。……………カワリクサグモ属

Tribus Agelenini SIMON, 1897, ad pars.

クサグモ群

模式属 *Agelena* WALCKENAER, 1805.

群の特徴 1)背甲は、長型で、まず卵状長楕円形であり、頭部は、小さくて狭く、高さは胸部に比べて少々高い。2)額は、長くて直眼径に劣らず、又中眼域長に劣らない。

3)直眼は、間眼Ⅰに比べると多少とも大きい。4)間眼行は、外曲性〔 〕である。間眼Ⅰは、いく分でも直眼よりも前位に在る。5)中眼域は、長>幅、前辺≡後辺である。6)上顎後縁の歯は、Ⅰ粗大である。7)胸板は、長心形で、前辺は広く鈍形、後方は短い、鋭尖形である。8)後疣節Ⅰは、Ⅰよりもいく分でも短いことが多い。ただし、Ⅰ≡ⅠのことやⅠ>Ⅰのこともある。

分布 北方界・東洋界・旧熱界・新熱界。

分類 1)間眼の大小・2)排列・3)後疣節の比大を組合せて、いくつかの類型に分けられる。しかしながら未だこのことを実施した学者を、筆者は知らない。

所属 唯1属 *Agelena* WALCKENAER, 1805 [= *Agelena* THORELL, 1870] [Genotype *labyrinthica* (CLERCK, 1757)] (クサグモ属)。

タナグモ科分布表

番 号 Number	分布区域 Faunal realm	新熱界 Neotropi- cal realm	旧熱界 Ethiopi- an realm	北方界 Holarct- ic realm	東洋界 oriental realm	南方界 Australi- an realm	兎唄界 Maorian realm
	自然群 Subfamily, Tribe						
I	Cicurinae	+	+	+	+	...
1	Cicurinini	+	+	+	+	...
2	Tetralini	+
3	Cryphocini	+
4	Chorizommatini	+
II	Asemoterinae	+
5	Pelididini	+
6	Asemoterini	+
III	Textrichinae	+
7	Textrichini	+
8	Haditini	+
IV	Ageleninae	+	+	+	+	+	...
9	Malthonicini	+
10	Tegenariini	+	+	+	+	+	...
11	Agelenopsini	+	...	+
12	Agelenini	+	+	+	+
Family Agelenidae		+	+	+	+	+	...